

出題のねらい・解答例

〔学校推薦型選抜〕

中村学園大学〔栄養科学部 フード・マネジメント学科〕

【小論文】

〈出題のねらい〉

栄養科学部フード・マネジメント学科は、理系科目の食品科学・栄養科学の知識を基礎として、食ビジネスに貢献できる人材養成を主目的とする文理融合型の学科である。このため、毎年公表される様々な統計データを理解・分析する能力に加えて、食料や食ビジネスについて記述した様々な文章を理解・分析する能力が求められる。小論文を課す目的は統計データや文章が意味するところを正しく理解し、食料をめぐる様々な社会的事象や考え方の背景を推論できるかどうかを判定することである。このようなことから、本年度の学校推薦型選抜の小論文においても、図表を読み取って指示に従って記述する問題のほか、文章を読み解き、その著者の考え方を整理して解答する問題を出题した。

本学科を志望する学生は、普段から食料の生産から消費、栄養摂取、健康、ならびに安全管理や環境保護・再生にわたる幅広い領域における動向やその本質に関心を持ち、新聞やニュース等から得ることができる情報に対して、自身としての考えを持つ習慣をつけておくことが望ましい。

特に、国際社会共通の目標であるSDGsに直接的、間接的に係わる食の諸課題を理解するとともに、その実現にむけた取り組みに関する考えを深化させていく姿勢は今後も必要である。

小論文（その1）は、海洋ごみの現状を理解するとともに、その海洋ごみのうちで高い割合を占めているプラスチック類が包装容器として食品産業で幅広く利用されており、深い関わりがあることを読み解く問題である。SDGsの目標の一つである“海の豊かさを守ろう”の達成に向けてなすべき取り組みを考えるための現状理解とそれらの問題意識を問う問題でもある。

問1は、国内で実施した漂着ごみのモニタリング調査結果から、海洋ゴミの内訳を設問の指示にしたがって、どのように読み取り、整理することができるかを評価した。

問2は、表2に示された海洋プラスチックによって具体的にどのような被害がすでに引き起こされているか、あるいは今後引き起こされると考えられるのかを考える問題である。その際に、漂流プラスチック類の形状や被害を受ける対象は幅広くなることを理解しているかを問うた。

また、記述問題である問1及び問2の採点で重視したことは次の2点である。

第1は、提示された調査データの内容を複数の項目に分けて整理し、指定されたキーワードを用いて、主語・述語が明確な文章として記述しているか否かである。第2には、指定された文字数の範囲内で誤字や脱字がなく、論理的な記述ができていないか否かについて判定した。

問3は、食品用包装容器の環境配慮設計の考え方として、3Rの概要を問うた問題である。Rが頭文字の3つの英単語とそれらの意味を理解しているか否かを確認するための問題である。

問4は、SDGsの日本語の意味を確認する問題である。

小論文（その2）は、近い将来に世界人口が100億人に到達することを見込んで、世界の食料事情をたんぱく源の供給の観点で考えた場合、その持続可能性を備えた農畜産業が進むべき方向性について考える問題である。

問1は、将来のある時点での世界人口を想定し、それまでの人口の増加率から、現在の世界人口を求める基本的な数理的思考力を確認する問題である。

問2は、出題文中に対比的に記述されている“従来”と“将来”の具体的なたんぱく源に関する理解を問うた。出題文中の「動物から、・・・代替肉に至るまで」との範囲を言及している記述から、将来の具体的な3つのたんぱく源を読み取る理解力を問うた。

問3は、今後の畜産業にとって大切なことは、高品質な肉（たんぱく質）を将来にわたって提供することだけではなく、世界人口の増大がもたらす環境問題へも貢献していく必要がある

ことを、指定されたキーワードを用いて、制限字数内で明確な記述文を作成しているか否かを判定した。

〈模範解答例〉

(その1)

- 問1 重量ベースでは、自然物が最も高い割合を占めており、プラスチックはその半分未満である。一方、容積や個数ベースでは、自然物よりプラスチックの割合が高く、およそ半分以上を占めている。(88字)
- 問2 漂流しているプラスチックが細片化してマイクロプラスチックとなり、海洋生物の体内に蓄積されたり、マイクロプラスチックに吸着される化学物質が海洋生物の食物連鎖に取り込まれる結果、生態系に及ぼす影響が懸念される。魚網やロープ等の魚具が海洋生物に絡まることによる生態系への影響や船のプロペラに絡まることによる船舶航行の障害や海難事故の発生も考えられる。さらに、漂着ごみによる沿岸域居住環境の悪化も懸念される。(200字)
- 問3 (1) b) (2) a) (3) c)
- 問4 持続可能な開発目標

(その2)

- 問1 80 (億人)
- 問2 従来のたんぱく源は、本物の動物肉を意味するのに対して、将来のたんぱく源は、動物ならびにバイオリクターで培養される人工肉あるいは植物由来の代替肉までのありとあらゆるたんぱく源を指す。(91字)
- 問3 将来、培養肉は大衆市場で消費され、本物の動物肉は高級品市場で少量消費されるため、動物肉を牧草で育てられれば、環境に負荷をかけない持続可能な農業が展開でき、気候変動の解決策にもなり得ると言うこと。(97字)